

令和5年 第2回

武蔵野市教育委員会臨時会

令和5年8月22日

於 412会議室

武蔵野市教育委員会

令和5年第2回武蔵野市教育委員会臨時会

○令和5年8月22日（火曜日）

○出席委員（5名）

教 育 長	竹 内 道 則	教育長職務代理者	清 水 健 一
委 員	井 口 大 也	委 員	高 橋 和
委 員	岩 崎 久美子		

○事務局出席者

教 育 部 長	藤 本 賢 吾	教育企画課長	牛 込 秀 明
指 導 課 長	荒 井 友 香	統括指導主事	高 丸 一 哉
教育支援課 教育相談支援 担当課長	勝 又 玲 子		

○日 程

1. 開会の辞

2. 議 案

議案第24号 令和6年度使用小学校教科用図書採択について

3. 協議事項

（1）令和6年度使用小学校教科用図書採択について

4. 報告事項

（1）令和6年度に特別支援学級で使用する教科書の意向調査の結果について

◎開会の辞

○竹内教育長 ただいまから令和5年第2回教育委員会臨時会を開会いたします。

初めに、会議録署名委員の指名を行います。

本日の会議録署名委員は、武蔵野市教育委員会会議規則第36条の規定により、議長において、岩崎委員、井口委員、私、竹内の3名を指名いたします。

これより議事に入りますが、本日の協議事項、令和6年度使用小学校教科用図書採択については、去る7月5日に行われた第7回教育委員会定例会における協議で公開とし、傍聴を許可することを決定しております。

なお、本日は21名の方から傍聴の申請がありました。

これより議事に入りますが、本日は報告事項、協議事項、議案の順に進めたいと思います。

◎報告事項

○竹内教育長 報告事項1、令和6年度に特別支援学級で使用する教科書の意向調査の結果についての説明をお願いします。

統括指導主事。

○高丸統括指導主事 私から令和6年度に特別支援学級で使用する教科書の意向調査の結果についてご報告をいたします。

特別支援学級で使用する教科書につきましては、文部科学省検定済み教科用図書を使用することが適当でない場合は、ほかの適切な図書、例えば絵本などを含めた児童用の一般図書を教科用図書として使用することができます。これは学校教育法附則第9条の規定によるものでございます。

本件につきまして、特別支援学級設置校に対し意向を調査したところ、一般図書の使用希望はございませんでした。そのため、今回採択いただくものはございません。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 ただいまの説明について、質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

それでは、この報告事項につきましては了承されたものといたします。

◎協議事項

○竹内教育長 続いて、協議事項1、令和6年度使用小学校教科用図書採択についてを議題といたします。

説明をお願いします。指導課長。

○荒井指導課長 それでは、本日の協議事項でございます令和6年度から令和9年度に使用する小学校教科書の採択につきまして、ご説明いたします。

初めに、この小学校教科書採択について、本日に至るまでの経緯をご説明いたします。

資料1、令和6年度使用小学校教科用図書採択についてをご覧ください。

今回の教科書採択を行うに当たり、4、教科書採択の流れにありますとおり、教育委員会で円滑に採択が行えるよう資料等を提供するために、採択協議会を設置し、学識経験者やPTAの代表者、教員など、様々な立場の方に委員としてお入りいただき、教科書に関する協議をしていただきました。その際、実際の見本本や、教科別検討委員会で作成した資料を参考にさせていただきました。

また、各小学校に教科書を回覧し、校長をはじめ教員の方々から、教科書の内容についてご意見をいただきました。

あわせて、市民の皆様からも広く意見をいただくために、去る6月14日から7月22日まで、各教科書の見本本を、市役所指導課教育推進室、中央図書館、吉祥寺図書館、武蔵野プレイスで展示いたしました。その際、23の方が閲覧し、24件のご意見をいただきました。これらは既にご覧いただいておりますが、本日は中央の机の上に置かせていただいております。

教育委員の皆様には、資料2に記載の各教科の目標を踏まえ、これまで多くの時間をかけながら、これらの資料や意見・要望をご覧いただくとともに、採択の対象となる教科書に目を通していただき、それぞれの教科書の内容や構成、特色について検討いただき、教科書研究を進めていただきました。

そして、8月8日には、非公開ではございましたが、第1回教育委員会臨時会を開催し、一つ一つの種目について十分に時間を取って、教科書を確認しながら採択候補の案についてご協議をいただいたところでございます。

本日、改めて小学校教科書の全種目について、学習指導要領の教科順にご協議をお願いし、採択すべき教科書の候補をお決めいただきたいと思います。

初めに、事務局から8月8日の教育委員会臨時会における協議結果についてご説明した後、教育委員の皆様のご意見をいただき、種目ごとに一つの候補を決めるという形で進めていきたいと考えております。

そして、全種目の協議の後、議案として改めてお諮りいたしますので、よろしくお願いいたします。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問がございましたらお願いします。

それでは、特に質問がございませんようでしたら、本日の日程につきましては、ふだんの定例会と異なり、まず協議事項として小学校の教科書の全種目について協議を行い、採択すべき教科書の候補を決めた後に、議案として改めてお諮りするといった順で進みます。

それでは、まず、国語について協議を行います。

説明をお願いします。統括指導主事。

○高丸統括指導主事 それでは、国語についてご説明申し上げます。

国語の教科書の発行者は3者でございます。

教科書の目標は、資料2の1ページに記載のとおりでございます。

採択協議会の協議では、光村図書出版は、学習の流れが分かりやすく、単元の流れも意識した構成になっている。また、既習事項を生かした学びが意識された作りになっている。

東京書籍は、ほかよりもイラストが多く、児童の意識がイラスト等のほかの情報に行ってしまうそうである。

教育出版は、社会や理科と関連づけがしやすくなっているなどの意見が出され、光村図書出版が良いのではないかと、次点で教育出版と協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書の良さや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、光村図書出版を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問がございましたらお願いいたします。

では、説明と先日の臨時会の協議を踏まえ、国語で採択する教科書の候補について、ご意見をお願いいたします。

岩崎委員、どうぞ。

○**岩崎委員** それぞれの教科書はいずれも優れた内容がありましたが、光村図書出版が良いと思いました。理由は、構造化されており、非常に分かりやすい。特に問いを立てて学習を進めることがこれからの子どもたちにとっては重要でありますので、「問いをもとう」というところが提示されているのが良いと感じました。内容の集約が良く、ページの色も良く、作家の人たちが委員に入っていることも国語の教科書として良いと感じた点です。特に高学年になると、小説や論理的文章など作家の人たちの視点を入れることも重要ですし、関心を引く内容かと、子どもたちが今後、読書を進める上で重要かと考えた次第です。

教育出版に関しましては、編集協力者にカリキュラムの専門家が入っていて、学術的な視点から教科としての体系化を図っているというのはとても良いと思いました。地域施設についての内容も見られましたが、地域施設に関しては、今後の子どもたちが将来にわたって学習をするという意味では、もう少し厚く記述されても良いと思ったところではあります。

東京書籍に関しましては、ノートの作り方の指導がしっかりしていて、「情報のとびら」では、高学年ですけれども、関係、調査、整理、論理について示されているのが良いと思いました。特に6年生の教科書に、社会教育施設ということで、一般には国語の教科書では図書館のみが取り上げられがちですけれども、博物館、美術館などが取り上げられておりました。読書リテラシーはいろんな施設でも使うものなので、そういったほかの公共的な社会教育施設も紹介されていて、子どもたちの学校外の学習に導くという点ではとても優れていると思いました。

以上、先ほど述べましたように、どの教科書も良い点がありますけれども、その中で構造的だという点で、光村図書出版を私は良いと思った次第です。

以上です。

○**竹内教育長** ほかいかがでしょうか。

井口委員、どうぞ。

○**井口委員** 私は光村図書出版が良いと思っております。まず、SDGsについてとても意識されているということ、また目次がとても見やすくなっています。言い方、書き方、持ち方、姿勢についての説明に対して、とてもリズム感がある書かれ方をしてあって良いと感じております。「この本、読もう」という部分では、読書の啓発にもつながって

いくと感じました。「モチモチの木」のページ構成はとても工夫がされておりまして、児童がこの場面を把握しやすいのではないかと思います。

次に、東京書籍です。その目次について、強弱がもうちょっと欲しいなと感じたところです。また、その目次が巻末にあるというのがちょっと分かりにくいのかな。自己紹介であったり、教科書の持ち方、国語ノートの作り方があるのはいいなというふうに見えました。「モチモチの木」では、最後の一文字のところで改行されているという点から、美しさや見やすさのバランス感がもう少し工夫されるといいなと感じております。

教育出版です。目次が巻末に入っていないながらも、この折り込みが中盤にありました。持ち方、姿勢、読みたい本、正しく書こうというコーナーがあって、見やすいと感じました。「モチモチの木」は、場面ごとがほかの出版社と違まして数字で表記されているというところで、分かりづらさにもつながりかねないと感じたところです。

私からは以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

清水委員、どうぞ。

○清水教育長職務代理者 光村図書出版からいきたいと思うんですけども、紙が白ではなくて薄いベージュ色になっています。これは目に優しく、これとても大事な要素だなと思っています。それから、活字の大きさ、行間、これもとても見やすいと思いました。文学教材が優れたものが多くて、学びやすい工夫が見られます。6年生で比較をすると、主体的・対話的で深い学びを展開しやすい教材として、「やまなし」とか「海の命」が入っている。これとてもいいなと思います。それから、1年生で「おおきなかぶ」が出てくるんですけども、この3者を比べたときに絵が一番いいなと。それから、文字が読みやすい。これとても大事なことなんですけれども、ページをまたぐときの文の切り方、これも光村図書出版が一番いいなと思いました。

東京書籍で言うと、表紙が美しく、文学教材もいいものも多く見られます。全体的に目に優しい色合いで、写真やイラストも美しいなと思います。あと言葉を学ぶ上での工夫も見られました。

教育出版は、上下の分冊になっています。分冊か1冊かということは、それぞれ長所・短所になるわけですけども、コンパクトで軽いというのはいいことだと私は思います。文学教材もなかなか充実していて、付録の文学教材も充実している。

3者を比較したときに、どの教科書もいいところがあるんですけども、その中で比

較したところ、光村図書出版が一番いいかなと思っています。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

高橋委員、どうぞ。

○高橋委員 私も光村図書出版がいいと思いました。1学年から6学年まで全て拝見いたしましたけれども、全体を通して望ましいと感じました。特に5年生でやなせたかしさんの作品が入っておりまして、戦争や世界平和についての考えというものが、児童がよく知っている「アンパンマン」の作者ということで、とても親しみやすく、戦争や世界平和について考えることができるのではないかと感じました。また、「ごんぎつね」は各者取り上げておりますけれども、その中でも一番読みやすいのではないかと思ったことと、あとは紙の色もとてもいいと思いました。

以上です。

○竹内教育長 それでは、各委員から一通りご意見をいただきました。

お諮りしたいと思います。

これまでにいただいた皆様のご意見を伺った結果、国語につきましては、光村図書出版を採択する教科書の候補に決定したいと思います。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、そのように決定いたします。

以上で、国語に関わる協議を終了いたします。

次に、書写について協議を行います。

説明をお願いします。指導課長。

○荒井指導課長 それでは、書写についてご説明いたします。

書写の教科書の発行者は3者です。

書写は国語の一部でございますので、書写としてだけの目標を示してありませんが、指導内容などについては、資料2、1ページをご覧ください。

次に、採択協議会の協議では、東京書籍は、雑然としている印象を受け、指導が難しく感じる。

教育出版と光村図書出版は、紙面が見やすい。

光村図書出版は、筆の使い方について、写真だけではなくイラストも加えていて視覚的に分かりやすいなどの意見が出され、光村図書出版が良いのではないかと、次点で教育

出版と協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書の良さや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、光村図書出版を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問がございましたらお願いいたします。

それでは、特に質問がございませんようでしたら、書写について、ご意見を申し上げます。

井口委員、どうぞ。

○井口委員 光村図書出版が良いと思っております。1年生ではタブレットを使う姿勢、そして、2年生では「えんぴつの ひみつ」というものに触れております。また、3年になると「筆をあらおう」ということで、特に「あらおう」という部分は、その教科が終わった後のところにまで触れていて、丁寧だなと感じているところです。また、先生・保護者の方へというところでは、6年間の学びの進度に触れているというところがいいと感じております。

東京書籍です。目次の上に「おかしなシリーズ」というものが各学年にあって、とても工夫されていると思っております。5年生の「世界の文字いろいろ」のコーナーでは、文字についての学びがあって、とても特色があるなと感じております。

教育出版です。1年生で鉛筆の持ち方でお箸の持ち方を例に挙げているのがいいと思いました。3年生の7ページでは、筆のキャップは捨てると書かれていて、ここもとても丁寧だなと感じております。5年生の表紙に暑中見舞いの絵が取り上げておりますけれども、1年間使う教科書として季節感に違和感がある。そのような季節にもあるのかな、例えば冬などですけれども。ただ、この「絵はがきを書こう」というテーマは、セカンドスクールに活用できるのでいいなと感じております。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

高橋委員、どうぞ。

○高橋委員 私も光村図書出版がいいと思いました。6年生の44ページにありました「私の文字」のコーナーで、文字にも個性があるというのを伝えているのはとてもいいなと思いました。また、1年生の動画では、右利き、そして左利き両方の書き方に対応して

いるところもとても良く感じたところです。

東京書籍ですけれども、2学年の9ページに二次元コードが3つ並んでいるところがありました。私、実際にそのQRコードを見てみようとしてみたんですけれども、Aを写したいのにBが反応してしまったり、Cが反応したりという形で、ちょっとQRコードの場所が近過ぎたのかなというところというのが気になったところです。また、4年生のところで、筆を洗ってすぐしまうように記載がありましたけれども、すぐにしまってしまうとカビが生えてしまうのではないかとというところで、この指導の方法はちょっとこれでいいのかという疑問点がございました。

教育出版です。消しゴムの使い方まで記載されているというのがありまして、良かったと思います。また、4学年では、理科に生かそうと教科横断しているところも非常に良かったなと思ったところです。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

清水委員、どうぞ。

○清水教育長職務代理者 毛筆指導でとても大切なというのは、筆の特徴を知ることだと思うんですね。筆のどの面を使って書くのかということを利用して分かりやすく説明しているのが光村図書出版でした。これを最初にやって、正しくていい字を書くということで考えたときに、やはり光村図書出版が一番武蔵野市の子どもたちの教科書としてはいいのではないかと思います。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

岩崎委員、どうぞ。

○岩崎委員 光村図書出版が良いと思いました。理由は、レイアウトの区割りがきれいで、情報量が整理されているということと、自分の文字を振り返る学習が教科書の最後にあるのが良いと思いました。

東京書籍ですが、6年生の漢文の「論語」を書く学習は面白いと思ったところです。書写の起源は中国にあるので、そういった視点は非常に興味深く感じました。

教育出版、最後の6年生で思い出を振り返る観点があるのが良いと思いました。しかし、情報量がすごく多くて、ちょっとポイントが分かりにくいという難点があったと感じております。

以上です。

○竹内教育長 それでは、お諮りいたします。

これまでにいただいた皆様のご意見を伺った結果、書写につきましては、光村図書出版を採択する教科書の候補にしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、そのように決定いたします。

以上で、書写に関わる協議を終了いたします。

次に、社会について協議を行います。

説明をお願いします。統括指導主事。

○高丸統括指導主事 それでは、社会についてご説明申し上げます。

社会の教科書発行者は3者でございます。

社会科の目標につきましては、資料2の2ページに記載をしておりますので、ご覧ください。

採択協議会の協議では、東京書籍は、情報量が充実している。児童が興味を持つような写真が導入で使われている。授業で扱うときの使い勝手が一番良い。

教育出版は、6年生の教科書で、戦時中の写真がカラーになっている。各学年で前の学習の既習事項とのつながりに触れているのも良い。

日本文教出版は、学習の見通しが持ちにくいなどの意見が出され、東京書籍が良いのではないかと、次点で教育出版と協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書の良さや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、東京書籍を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問がございましたらお願いいたします。

それでは、特に質問がございませんようでしたら、社会についてのご意見をお願いいたします。

岩崎委員、どうぞ。

○岩崎委員 私は東京書籍が良いと思いました。問いを提示し、内容が構造化されているという点に着目したところです。「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「いかす」といった論理的な思考のプロセスを非常に重要視しているところを、非常に高く評価し

ました。社会的な見方・考え方に関しても整理されています。6年生は分冊になっていて、歴史編と政治・国際編とあり、これは中学校、高校に進んでも学術的な体系化の最初として学びやすいと感じました。例えば、歴史の織田信長と豊臣秀吉を扱ったページで、天下統一までの様子を図にし、取組をまとめるという課題があつて、これは習った内容を自分の考えの中で整理する作業として非常に良いと思いましたし、学問的な観点が入っていると思いました。

教育出版、「次につなげよう」という児童の積極的な調べ方、考え方を誘発する工夫があつて良いと思いました。

日本文教出版、見方・考え方、見る、調べるのポイントが提示されていて分かりやすいと思いました。

いずれも良い点がありますが、構造的な提示の仕方、論理思考のプロセスを重視しているという点で、東京書籍が武蔵野市の子どもにとっての学習内容としては良いと感じたところです。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

井口委員、どうぞ。

○井口委員 東京書籍が良いと思っております。先ほど岩崎委員からもございましたけれども、6年生の教科書の部分で、政治・国際編、そして歴史編というふうに分かれている。これはとても分かりやすいと感じたところです。また、5年生では、上巻、下巻と分冊に分かれているところ、これが重さの軽減にもなるのではなかろうかと思ったところです。社会は特に教科書、ノート、そのほか資料とか、または学習者用コンピュータなど考えますと、机の上のこのスペースから見ても、薄さであつたりということも大切な一つの視点なのかなと思っておるところです。

次に、教育出版です。まず、3年生の市の移り変わりというものが写真で提示されていて、分かりやすい思ったところです。また、5年生では、川上村というところが一つございまして、実際にむさしのジャンボリーで行くところのレタスというところで、とてもなじみやすい。また、68ページには南魚沼というところが出ており、セカンドスクールでも行くという学校が多いですので、子どもたちの愛着につながりやすいと感じたところです。

日本文教出版です。3年生の市の移り変わりが写真で示されているところもあります

けれども、この姫路市の事例がとてもページを多く割かれていて、この姫路市というところに児童が引っ張られないかというところが心配に感じたところです。市民からの意見にも、内容が少し難しいのではないかという意見もありました。

私からは以上です。

○竹内教育長 清水委員、どうぞ。

○清水教育長職務代理者 東京書籍ですけれども、「ことば」というコーナーが本文の欄外にあり、言葉の説明をしています。また、欄外のグラフや資料を比較し、児童が課題を見つけて学んでいけるような工夫が良いなと思いました。本文の記述も分かりやすい文章となっています。

教育出版ですけれども、教科書見開きの中央寄りに本文、欄外にはキーワードとしての語句の説明や資料となるグラフなどが出ていて、東京書籍同様、使い勝手がいいなと思います。「次につなげよう」というコーナーがあるんですが、児童に考えてほしい事柄が出ているのが良いと思う反面、この内容だったら学びの中で児童自らが気づくべきだなと思いました。

日本文教出版は、どんなことを学ぶか、どうやって調べるかまで出ていて、ちょっと過剰サービスが気になります。児童の気づく力とか学ぶプロセスの習得にあまりプラスにならないのではないかと思います。あと1つ気になったことなんですけれども、6学年の日本国憲法のところで、3つの柱、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義ですけれども、3者の中で日本文教出版だけが基本的人権からスタートしているんですね。やっぱり順番は国民主権からスタートすべきだと私は思います。武蔵野市は主権者教育をとても大切にしているので、なおさらであると思います。政治の在り方を決めるのは国民一人一人であるという主権者教育の王道を行っているのは、教育出版かなと思います。

それぞれの良さがあるんですけれども、児童の主体的・対話的な学びということにおいては東京書籍が一番いいなということで、東京書籍を私は選びたいと思います。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

高橋委員、どうぞ。

○高橋委員 私も東京書籍が良いと思いました。3年生の学習で町を調べることを丁寧に扱ってありますが、これは武蔵野市民科ともつながる学習だと考えます。

また、教育出版ですけれども、とてもレイアウトが見やすく、全体的に整っている

という印象を受けました。6年生の各国を調べる学習がありましたけれども、同じ調べ方でも国によって違いを見つけるなど、児童が新しい視点を身につけられるのではないかと、とても良いと感じました。

日本文教出版ですけれども、4年生のところでシールがいっぱいあったんですね。ちょっとそれが逆に子どもたちがいろいろなところにシールを貼ってしまったりというようなところで気になるころでした。また、本文の中で括弧をつけた吹き出し的なものが多く見受けられたんですけれども、レイアウト的にも私は見にくく感じました。

以上です。

○竹内教育長 それでは、お諮りいたします。

これまでにいただいた皆様のご意見を伺った結果、社会につきましては、東京書籍を採択する教科書の候補としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定いたします。

以上で、社会に関わる協議を終了いたします。

次に、地図について協議を行います。

説明をお願いします。指導課長。

○荒井指導課長 それでは、地図についてご説明申し上げます。

地図の教科用図書の発行者は2者です。

地図は社会の中で活用する教科用図書でございますので、地図としてだけの目標は示されておりませんが、資料2、2ページに配慮事項等をまとめてございますので、ご確認ください。

次に、採択協議会の協議では、帝国書院は、色分けや記載内容が細かく、情報量が多い。3年生で初めて地図を学ぶときにイラストの大きさや表記が学びたくなるような教科書になっている。

東京書籍は、かなり込み入っていて、帝国書院のほうが読みやすいなどの意見が出され、帝国書院が良いのではないかと、次点で東京書籍と協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書の良さや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、帝国書院を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問がございましたらお願いいたします。

特に質問がございませんようでしたら、地図についてご意見をお願いします。

岩崎委員、どうぞ。

○岩崎委員 帝国書院が良いと思います。地図というのは情報量の多いものなので、帝国書院の教科書は、最初に「広く見わたす」という形での地図を提示して、イメージを持って次の詳細な地図に入ることができて、分かりやすく見やすい印象を与えているのに成功しているように感じました。日本の領土について、ある程度明確に意識化させているという点も子どもたちの中で日本というものを意識づけるには良いのかなと思いました。あと、見やすいだけではなく、児童がイメージを持ちにくい、例えばアフリカの地図にモーリタニアのタコやサウジアラビアにデーツ、マダガスカルにバオバブの木とか、現地に行かないと分からないような情報ではありますけれども、日本にも食べ物として入ってきたり、写真等で見たりするようなものが特徴づけされていて、海外に関する子どもたちの関心喚起にいいと思いました。

東京書籍ですが、地図の使い方がストーリー性を持っていて、学習できるようになっているのは良いと思いました。表紙は地図帳としてとても良いと感じました。ただ、非常に地図の情報量が多く、また日本の国を特に意識させないところも、かえってどうかと感じました。

以上の理由で、帝国書院が良いと思いました。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

高橋委員、どうぞ。

○高橋委員 2者ともとてもいい地図だなというふうに私は思いました。

帝国書院は、圧倒的に見やすいという感じを受けました。「広く見わたす地図」として情報を多過ぎないようにしているところが反対に良かったのではないかと感じております。また、地域の名産や産業について、子どもたちが興味深く学習できるように描かれているのがとてもいいと感じました。

東京書籍は、逆に貿易や歴史などの資料を関連させる情報が多くて、そういう意味では情報量が非常に多い地図だなと感じました。また、視点や興味を引き出すために名産などのイラストが入っているというのもとてもいいと感じました。ただ、現在では、例えば地図とか地形を調べるのであれば、インターネットで調べることのほうが多いと思うんですね。ですから、地図というものは、土地を調べるだけではなく、そういういろ

いろな比較ができるというのが本のいいところではないかと感じましたので、そういう意味では、いろいろな名産とか産業とか子どもたちが興味深く地図を見るという視点において、私は帝国書院がいいというふうに感じました。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

清水委員、どうぞ。

○清水教育長職務代理者 帝国書院は、「広く見わたす地図」が最初のほうに出ている、日本地図に初めて出会う児童にとっては見やすい地図だなと思います。日本の全体像をつかんでから細かい地図を見るプロセスになっている。地図の色合いなんですけれども、土地の高低差が色の違いや濃さで表記されていて大変分かりやすい。細かい日本地図も同様に見やすいなと思います。

東京書籍は、まず字の大きさとかということかなと思うんですけれども、ちょっとごちゃごちゃした感じを受けました。土地の高低の色分けがちょっと分かりにくくて、富士山などは高さを感じにくいような感じを受けました。

世界地図については、それぞれ工夫が見られるわけなんですけれども、全体として見やすいということと言うと帝国書院のほうが見やすいということで、こちらのほうがいいのではないかと思います。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

井口委員、どうぞ。

○井口委員 私も帝国書院がいいと感じております。69ページには、当時の江戸の生活で、この江戸の時代のリサイクル、そしてエコという部分に触れているよという紹介がとてもいいなと思ったところです。下肥を運ぶ人であったり、紙くずを買う人など、具体的にこのリサイクルの仕事が表記されていて、それがこの江戸の時代からあったということが、とてもいい一つのきっかけになるのかなと思いました。また、この帝国書院には、三鷹であったり武蔵境や吉祥寺といった武蔵野市の地名が書かれているところがあって、とても子どもたちに親しみやすいのかなと思っております。また、96ページにはジャンボリーで行く地域、そして98ページにもセカンドスクールで行く地域が取り上げられておいて、この武蔵野市と関連のある地域の記載があってとても親しみが湧くのかな。81ページの世界地図の地球儀では、この日本というこの活字で書いて、とてもここ

にも丁寧だなというふう感じておるところです。

東京書籍は、43ページの動物園マークに井の頭自然文化園のマークが入っていて、子どもたちがよく行くであろう一番近い動物園ですので、親しみが湧くのかなと。ただ、55ページには、千島列島が北海道と別のページになってしまっているというところで、見やすさではどうなのかと思ったところです。62ページのヨーロッパの地図では、同じ緯度の場所を示す日本列島が薄く書かれているんですが、これはトルコの国の地図の中に重なってしまっていて見づらいなというふうに、工夫がされていたらと思ったところです。

以上でございます。

○竹内教育長 私からも2者を比較して気になった点を申し上げておきます。

武蔵野市を含めた東京の区市町村の扱いのところなんですが、帝国書院の71ページから73ページにわたって記載されている地図と、それから東京書籍で言うと43ページから44ページの2ページにわたって記載されている地図を比較すると、扱いが大きいという点から、東京都の学習、武蔵野市を含めた東京都の学習をするのに適しているのは帝国書院かなという点と、表紙の加工なんですが、3年生から6年生までの4年間使うという意味からも、帝国書院の表紙の仕上がりについて、こちらのほうに利があるのかなと思っています。

それでは、お諮りします。

これまでにいただいた皆様のご意見を伺った結果、地図につきましては、帝国書院を採択する教科書の候補としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定いたします。

以上で、地図に関わる協議を終了いたします。

次に、算数について協議を行います。

説明をお願いします。統括指導主事。

○高丸統括指導主事 それでは、算数についてご説明申し上げます。

算数の教科書の発行者は6者でございます。

教科の目標は、資料2の2ページに記載のとおりでございます。

次に、採択協議会の協議では、東京書籍と教育出版は、単元の導入が具体的で分かりやすい。

東京書籍は、しっかり考えさせるけれども、難しいところは吹き出しの内容で考え方の道筋をつけられるようになっている。

新興出版社啓林館や大日本図書は、吹き出しの内容が誘導的で、児童の思考のレールを敷いてしまう。算数が苦手な子からすると、教科書が分厚いだけで圧迫感がある。

東京書籍は、中学校数学の学習につながる統計の学習がすっきりとしていて分かりやすく、児童の思考もすっきりとするなどの意見が出され、東京書籍が良いのではないかと、次点で教育出版と協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書の良さや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、東京書籍を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問がございましたらお願いいたします。

それでは、特に質問がございませんようでしたら、算数についてご意見をお願いいたします。

清水委員、どうぞ。

○清水教育長職務代理者 これはどの教科にも言えることですが、学びの始まる最初の学年の導入というのはとても大事だと思います。特に算数においては、1年生の児童が教科書を最初に見たとき、わあ、算数って楽しそうだなと思うか、何か難しそう、嫌だなと思うかというのは大きな違いだと思うんですね。1年生の導入で大切なのは、絵の優しさとか、登場人物の笑顔だとか、字の大きさとか、紙の色とか、余白があっごちゃごちゃしていないと、そういったことをやっぱり大事に見ていくと、これらを全て満たしているのは東京書籍だけかなと思います。

それぞれについて感じたことを申し上げます。

東京書籍は、優しい色合いで、字体も見やすい。先生が主体的・対話的で深い学びを進めやすい構成になっています。単元の途中、単元末の練習問題、学年末の復習問題や補充問題の内容、それからボリュームともちょうどいいなと思いました。でも一番いいのは、余白の分量がちょうどいいところです。算数の教科書が余白なくびっしり書かれていたら、考えてみたいという気持ちが萎えてくるんですね。この教科書の紙面構成は、何か算数の教科書のお手本のように感じました。

それから、大日本図書ですけれども、発達段階を踏まえて、学年進行とともに中身の

取扱い方もステップアップしています。単元末の習熟問題、巻末の復習の問題の内容、ボリュームもちょうど良いと思います。さらに、その後の「プラス・ワン」というページは、問題数が多過ぎるけれども、これはむしろ大日本図書の良さだなと思っています。また、数直線の書き方が巻末に出ていますけれども、これは文章題を考える上で大切なアイテムであって、とてもいいなと思っています。

学校図書、これは特殊サイズの大きさですけれども、この特殊サイズを有効に生かして、あと問題の内容とかも含めてなかなかいいと思っています。ただ、全学年に出てくるんですけども、「考え方モンスター」というのがあって、これは児童がポケットモンスターを連想して、時には学びの妨げになるなと思いました。こういったのは、ぜひ次のときにやめていただきたいなと思っています。

それから、教育出版ですけれども、本文の記述、問題の数、内容ともかなりいいなと思います。ただ、各学年の初めにある「みんなで算数をはじめよう！」というのは、4つの学習過程におけるポイントの記述が全学年同じです。学年進行により学び方とか思考力とか対話力というのは高まっていくので、やはり学年の発達段階に合った記述にするほうがいいなと思いました。

それから、新興出版社啓林館です。特に1年生がいいなと思いました。先生が児童と数について自由に遊びながらスタートできる。余白や字や絵も児童にわくわく感を持たすことができるような内容になっています。その後も数の仕組みを十分理解できるよう学習が進む配慮がされています。他の学年も、見やすさ、優しさはこの教科書の長所であり、学ぶべき内容を理解できる構成となっています。ただ、キャラクターが出てくるんですけども、このキャラクターがヒントを出すんですね。このヒントがややうるさいなという感じがしました。

日本文教出版ですけれども、巻末の問題、学習の復習、「算数マイトライ」は、補充問題としてはちょうどいいなと思います。キャラクターに何々さんって、これは日本文教出版だけですね。あとほかの会社は全部呼び捨てでした。5・6年の「算数の学習をはじめよう！」というコーナーは、学習のプロセスを確認するものですが、3ページの学び方の4ステップ、こちらが大事なので、これを見やすくすると良かったなと思います。

6者を比較して、いい教科書も多かったんですけども、武蔵野市で採択するならば、やはり頭が一つ飛び出している東京書籍が良いなと考えました。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

高橋委員、どうぞ。

○高橋委員 東京書籍ですけれども、1年生の導入では、幼稚園のときの写真というのがあって、とても親しみやすいのではないかと感じました。問題の内容等も武蔵野市の子どもたちにはちょうどいいように感じました。

学校図書ですけれども、5年生の下のほう、二次元コードが重ねられるというのは斬新なところだと感じました。ただ、私も清水委員同様、「考え方モンスター」というのが気になるのかなと感じたところです。

教育出版です。教育出版は早い段階で時計について内容が書かれていて、重視していることがうかがえました。また、2年生の上では筆算の説明、3年生では練習問題がとても充実しているように感じました。

新興出版社啓林館は、文字というよりも視覚で分かりやすいのが私はとても印象的でした。

各者とてもいいところはあるんですけれども、私もこの中で選ぶとするならば、東京書籍がいいのではないかと感じました。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

井口委員、どうぞ。

○井口委員 私からは特にこの東京書籍と教育出版について、コメントをさせていただきます。

まず東京書籍は、このキャラクター自体の親しみなどからも、算数が苦手だなと思ってほしくないというところから、程よい感じでの描かれ方がしていてとてもいい思っております。

教育出版は、市民からの意見にも、表紙に算数にちなんだアニメが描かれていて、これが算数苦手にならないようなこの導入に一役買うのではなかろうかというようなことも書いておりました。

私は、これらの中から東京書籍がいいというふうに思っております。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

岩崎委員、どうぞ。

○岩崎委員 それぞれの委員の方たちのコメントと同じところは割愛しまして、それ以外について言及します。

東京書籍は、文字のレイアウトが良いということと、出てくるキャラクターが笑顔であること、分からないと悩んでいる姿が良いと思いました。やはり数学が苦手といった認識を持っている子どもにも配慮があつて、分からないと思っている子にも寄り添った包摂性を感じました。それ以外の例えば日本文教出版や教育出版などの教科書を見ますと、キャラクターの目がきらきらしていかににも利口そうなお子さんというイメージが感じられました。やはり算数をする子のイメージにバイアスがかかるのは良くないので、分からない子にも寄り添うようなキャラクター使いをすることが重要ではないかと感じたところです。その点でも東京書籍は配慮があり、武蔵野市として採用するのに良いのではないかと思います。

以上です。

○竹内教育長 私からも、今委員からご意見いただきましたが、そのことに触れて申し上げておきたいと思います。

一つ教育出版については、例えば、今回、小学校で学ぶことになった代表値、統計的な単元のところで、「読書チャンピオンを決めよう！」という記述があるんですね。これに限らずほかの単元のところでも、その学ぶことに対しての動機づけが非常に児童の日常生活に結びつけようという意図が感じられて、そういったところは良い点じゃないかなと感じました。

それから、井口委員と岩崎委員からお話があったとおり、武蔵野市の場合は、子どもたちの学力の面では平均値としては高いんですけれども、どの子にとっても算数を身近にしていきたい、親しみやすくしていきたいという教育委員の前回の臨時会のご議論がありました。そのことを踏まえての今のご発言だったと思うんですけれども、そういった意味で東京書籍の算数に対する親しみやすさの工夫というのは、非常に評価できるかなと思いました。

それでは、お諮りいたします。

これまでにいただいた皆様のご意見を伺った結果、算数につきましては、東京書籍を採択する教科書の候補としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定いたします。

以上で、算数に関わる協議を終了いたします。

それでは、次に、理科について協議を行います。

説明をお願いします。指導課長。

○荒井指導課長 それでは、理科についてご説明申し上げます。

理科の教科書の発行者は5者です。

教科の目標については、資料2の2、3ページに記載のとおりです。

採択協議会の協議では、大日本図書のみが4年生の植物の観察でツルレイシを取り上げています。棚を作らず、家庭でも栽培可能で試すことができるのが良い。

大日本図書は、実験の安全への配慮が良い。

教育出版は、巻末だけに実験の安全に関する項目があるのは使いづらい。

新興出版社啓林館は、全学年振り返りがあるということなので、系統性を常に意識することができるなどの意見が出され、大日本図書が良いのではないかと、次点で新興出版社啓林館との協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書の良さや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、大日本図書を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問がございましたらお願いいたします。

よろしいですか。

それでは、特に質問がございませんようでしたら、理科についてご意見をお願いいたします。

清水委員、どうぞ。

○清水教育長職務代理者 3年生から始まる理科の出会いというのは、とても大事だと思います。3年生の教科書の表紙をめくって最初のページですね。これがとても大事だと私は思っています。各教科書を見たんですけども、いいものがとても少ないというのが残念でした。大日本図書がやっとまあまあいいかなというぐらいです。

とても残念だったのは、東京書籍です。最初のページ、不思議だねということで、成長した植物が出ているわけですけども、植物の高さのスケール感、これがおかしい。こういう記述があります。「似たような小さな種から植物が育っていく…」というところ

ろです。しかし、ハウセンカとヒマワリの種、これ大きさも形も全然違うんです。これを似たような小さな種ということで片づけていくということが、理科としてどうなんだろうか。僅かな違いを見つけることから課題づくりが始まっていく理科において、出会いがあまりにも乱暴だなと思って、とても残念に思います。

大日本図書ですけれども、写真が分かりやすく、イラストも丁寧です。文字も見やすく、大きさや余白の割合もいいなと思っています。3年でカイコガが載っているんですけれども、武蔵野市としては、これはいいのかなと思います。問題解決型の学習を進める上では扱いやすい教科書かなと思います。単元末の「確かめよう」では、考え方を聞く問いがあって、文章で説明させるなど、思考力や表現力を磨くことができるのでいいなと思います。

学校図書ですけれども、6年の物の燃え方と空気の導入がまきを燃やしているところなんですね。まきを燃やしている写真が導入になっているのは、この学校図書だけです。武蔵野市の小学校というのはジャンボリーでまきを燃やす経験をしていますから、この写真を見るととても課題づくりがうまくいくんですね。他者は、ちょっと残念ですけれども、バースデーケーキのろうそくだったりランプだったりするわけです。これだと話し合いは深まらない。内容的にも学校図書はいいので、採択の候補にしたいところなんですけれども、これも算数と同様に「理科モンスター」というのが出てくるんです。これがやっぱりとても残念だなと思っています。

教育出版はイラストがとてもいいなと思います。字や行間、幅なども見やすさでいうと、もしかしたら教育出版が一番いいかなと思います。各単元とても詳しく書かれており、参考書的にも使えます。発表のときに使える言葉がまとめてあるというのもいいなと思います。ちょっと残念なことなんですけれども、3年の「生活科から理科へ」というところで、先生が生活科で作ったおもちゃを児童に聞くシーンが出ています。児童は「ゴムで動くコップロケットです。」と言っているんですね。生活科の教科書を調べたら、このロケットを作っているのは教育出版だけです。武蔵野市のように教育出版でない生活科を採択している場合、どうなんですかという話になっちゃいます。

それから、新興出版社啓林館ですけれども、巻末にノートの取り方や発表の仕方が出ているのは良いと思います。見やすい構成で、写真やイラストもいいんですけれども、単元によっては吹き出しで本来児童が考え、話し合う内容が出てきています。教科書を使っていて授業が進みやすいとは言えない。割合キャラクターがヒントを言っている教

科書は多いんですけれども、これはやっぱりできるだけ控えて、子どもたちが協働的な学びによって、子どもたちの声として出てくるような編集がいいなと思っています。

全体を通して考えると、科学的な見方・考え方を児童が身につけていく上で使い勝手の良い教科書としては、大日本図書ではないかと私は思います。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

岩崎委員、どうぞ。

○岩崎委員 私は当初、新興出版社啓林館が良いと思っておりました。第1点目として、楽しく理科に関心を子どもたちに持ってもらおうという意味では、「わくわく」というタイトルが良いと思ったことがあります。理科の原点としては、いかに問いを精選して子どもに提示するかが重要で、一通り理科の教科書の問いを比べてみましたが、新興出版社啓林館の問いはとてもよく練られている、問いの精選が進んでいるという印象を受けました。行間があって、教員に裁量があり、それは教員にとって良いと私は当初思いましたが、それによって実は教員によって差が出るということにつながることを議論して改めて感じたところです。とても良い教科書で、実験などでシンプルに実証させ、さらに暮らしに関係づけているという意味ではいいと思いましたが、小学校の教員は実験等で解決が必要なものに対する解説がないと難しいという実態があるということも、その後、教育の現場の意見から分かったところです。

ということで、大日本図書に関しては、私は教科書の問いが科学的な問いになってほしいという思いはありますが、二次元コードの内容の充実や現場の意見を総合的に考えて、参考書的な要素がより深く入っている大日本図書も良いと考えました。

東京書籍、学校図書については、私は問いというところを注目して見ていたわけですが、もう少し深い内容につながるような工夫が必要と感じたところです。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

井口委員、どうぞ。

○井口委員 私も大日本図書がいいと考えております。家庭での観察が可能である植物を扱っていることがとてもいいと思っております。また、学校でそろえてある実験器具が扱いやすいというところもいいと思っております。著作者の中に武蔵野市に縁のある方がいらっしゃるというのもその一つであります。

次に、東京書籍は、裏表紙に目次がついておりまして、工夫がされているなど感じたところでした。

次が新興出版社啓林館です。3年生の64ページ、「自由研究の進め方」というところで、研究するテーマを決めるというところがございます。その中に、本を読んでテーマのヒントを探してもいいねということで、本が紹介されているわけですがけれども、教科書として扱うことが不適切ではなかろうかというような人物が作った著書が紹介されているというところが引っかかっているところがございます。

学校図書と教育出版については、市民からの意見にも、QRコードについて、これが薄い、弱いというような声、意見がありましたので、以上が私の意見といたします。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

高橋委員、どうぞ。

○高橋委員 私は、小学生の理科の教科書においては、もちろん自らの目で確かめて、手で触れて、頭で考えてというのが大切だというふうに考えているんですけども、やはり実験などでできない部分もたくさんあるかと思います。そういう意味では、動画で学ぶということも一つの学びとして大切な要素だと私は感じておったので、QRコードでどのように各者扱っているかというところも着目をいたしました。

大日本図書は、やるべきことが明確に示しており、分かりやすいというふうに感じました。また、二次元コードも多用されており、学んだことをとても生かせるんじゃないかと感じました。

学校図書ですけれども、学校図書はゲーム感覚で興味を引こうとしているところが非常に面白く感じました。また、4年生の星座の見開き2ページはとても圧巻だったなと感じました。

新興出版社啓林館の問題からまとめの構成というのがとてもいいなと感じました。ただ残念なところとしては、二次元コードを読み取りますと、全てNHKにつながったんですよね。なので、このところが工夫の余地があるのかなと感じたところでした。

教育出版は、全体の流れが私は見づらいように感じました。ただ、全学年のつながりをとても大切にしているのも同時に思ったところでした。5年生は、ちょっと情報が多いというのが逆に気になったところでした。

東京書籍につきましては、見やすく分かりやすかった、また、結果から次の課題につながっていて、QRコードも多用されているというのはとてもいいように感じました。

各者ともにいいところはあったと思うんですけども、私は大日本図書が一番いいと感じました。

以上です。

○**竹内教育長** 私も理科については、良質な課題発見につながるのかという観点から教科書を見てきていました。それぞれの委員の皆さんから多様な視点でご意見いただいたんですが、そのことを踏まえまして、比較的良いものを選びますと大日本図書になるかと思えます。

それでは、お諮りしたいと思います。

これまでにいただいた皆様のご意見を伺った結果、理科については、大日本図書を採択する教科書の候補としたいと思います。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○**竹内教育長** それでは、このように決定いたします。

以上で、理科に関わる協議を終了いたします。

次に、生活について協議を行います。

説明をお願いします。統括指導主事。

○**高丸統括指導主事** それでは、生活についてご説明申し上げます。

生活の教科書の発行者は6者になります。

教科の目標については、資料2の3ページに掲載をしているとおりでございます。

採択協議会の協議では、光村図書出版の「ふりかえろう」の「こんなことあったかな」は、気づきの質を高めることができる。

光村図書出版は、学びの見通しや広がりを持つ揺さぶりがあった。

教育出版のウェビングマップは大人も使っているので、子どもの頃から慣れ親しむことができる。

光村図書出版と東京書籍は、「保護者の皆様へ」のコーナーが家で保護者と話をするきっかけとなるなどの意見が出され、光村図書出版が良いのではないかと、次点で東京書籍と教育出版と協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書の良さや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、光村図書出版を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問がございましたらお願いいたします。

それでは、特に質問がございませんようでしたら、生活についてご意見を申し上げます。

高橋委員、どうぞ。

○高橋委員 私は光村図書出版がいいと思いました。気持ちが増えるほど楽しくなるという巻末の記述が、武蔵野市の育てたい子どもの児童像に合っていると思ったからです。また、イラストや写真が分かりやすく工夫されていて、こんなことがあってもいいよねの表記がとてもいいと思いました。また、匂いの発見の学習内容も良く感じたところです。

新興出版社啓林館ですけれども、健康に関する記述がとても良いと思いました。ただ1点、私が疑問に思ったのは、見開きでイラストがあったんですけれども、タンポポの綿毛とヒマワリの花が同時にあって、季節感として適切な表現であるかという疑問を感じました。

東京書籍です。写真の子どもの表情がとてもいいなと感じました。また、教科横断的な意図を見受けられたんですけれども、吹き出しとフォントが合っていないようにも感じました。

大日本図書は、「きらきらことば」や「名人」といった児童がとても好きな言葉を使っているのはとても良かったと思います。また、二次元コードを活用した内容もとても充実しているように思いました。

学校図書は、面白かったなと思うのは、電車、バスの乗り方が切符を買うではなく S u i c a でというところが現代の生活に合っているなと思ったところです。

教育出版は、インクルーシブ教育がとても充実しているように感じました。ただ、学校探検の内容に少し分かりづらさがあったなというのが私の中の印象です。また、動画を見たんですけれども、観察に適していないような箇所というのがちょっと見受けられたのが残念に思ったところでした。

全てを鑑みまして、私は光村図書出版がいいと思いました。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

岩崎委員、どうぞ。

○岩崎委員 いずれの教科書も写真が多く多用されていて、児童に対する工夫があると思

いました。

その中で光村図書出版の教科書を良いと思うわけですが、それは、絵本のような体裁が発達の連続性という意味で子どもが学習に適用しやすい、そういったセンスの良い内容であったということです。見通し、振り返りなどの視点が示されていることや、別冊になっている工夫も面白く、どちらかという教科というよりは幼稚園、保育園などの就学前教育から初めて学校に入る導入という意味で、子どもにとっていかにも教科書という形ではない体裁になされているなどの点で、光村図書出版を高く評価しました。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

清水委員、どうぞ。

○清水教育長職務代理者 まず、東京書籍ですけれども、上で学校はどんなところというのはいいんですけれども、教室で勉強している写真が少ないなと思いました。あと、学校探検で校長や校長室の写真がないんですね。これは入れるべきだなと思います。それから、下になるとぐっと社会や理科に近づいてきて、探究の仕方や発表の仕方などを分かりやすく説明しているのは良いなと思いました。

大日本図書ですけれども、上の24ページからタブレットパソコンを使った学習が出てきます。その後、随分随所にタブレットパソコンが出てくるわけですが、武蔵野市の学校でタブレットパソコンが学習に登場するのはもうちょっと後なので、教科書としてどうなのかなと思います。また、この教科書は、上から下になるとタブレットパソコンが出てくる登場回数というのが減っていくんですね。これは逆のほうがいいのではないかなと思いました。

学校図書ですけれども、上の「じぶんでできるよ」というところのイラストとか写真、大切な笑顔がちょっと足りないんですね。生活科でどんなことを学んでいくかというのが見えにくいという感じがしました。あと残念だったのは、上の78ページ、「むしだいすき」というところがあるんですけども、プリンカップでバッタやコオロギを捕らえるんですね。この方法だと、プリンカップで虫を潰してしまうおそれがあります。なので、これはちょっと改善の余地があるのかなと思いました。

それから、教育出版ですけれども、上、下とも多様性を大事にしています。ただ、下巻になると文字が多くなって、ちょっとごちゃごちゃした感じに受け止めました。スッキリとした紙面構成になるといいなと思います。

光村図書出版の上の「いちねんせいがはじまるよ」というところは、優しい色合いで、出てくる人がみんな優しい笑顔であるということ、見ると楽しい気持ちになりますね。ですから、1年生にとってそういう意味ではとてもいいスタートだなと思います。それから、56ページからの「いきものとなかよし」というのは、ダンゴムシとかアリとかカマキリとかバッタといった武蔵野市のどこの小学校や公園にでもいる生き物を取り上げています。観察のポイントや記録の取り方も出ています。下に入ると理科や社会科につながっていくような内容になっていて、とてもいいなと思いました。

新興出版社啓林館は、学習の進め方がとても分かりやすいということが長所です。下では、発表の仕方の基本などについて触れ、学び合いを大切にする姿勢が感じられます。ただ、上の52ページですけれども、「生きもの大すき」でモルモットとバッタを同時に扱うというところの意図がちよっと私には分かりませんでした。

全体を通して考えると、やはり1年生で楽しさとか優しさとかそういったものを大事にして、そして、下のほうで社会や理科の学びにしっかりとつなげていくという意味において、光村図書出版を採択したらどうかと思います。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

井口委員、どうぞ。

○井口委員 私もこの光村図書出版がいいと思っております。特に、この振り返りの中で「こんなことはあったかな」という工夫がいいなと感じたところです。

次に、東京書籍は、保護者への記述、保護者に向けた記述が多い。この生活科という中において、子どもとその保護者との関わりがあるのはとてもいいのかなと感じております。

教育出版ですけれども、これは市民からの意見では、イラストや写真が整っている、分かりやすい学習の流れがあったということが書いてございました。また、迷路やサイコロが活用されていて、特色があるなと感じております。

学校図書ですけれども、上巻では、最初の目次のところの2ページというところ、「はじまるよ しょうがっこう」というその目次の部分ですけれども、4月よりも前の段階にこのマークが始まっていると。ところが、教科書を子どもたちにお渡しするのが4月以降というところから、何かここの構成、配置に疑問が生じているところでありませう。また、この上巻、下巻の単元の配列に季節のずれが見られるのかなと感じたところ

です。

次に、新興出版社啓林館です。市民からの意見では、写真の子どもの顔の大きさについて、何か誘導的ではなかろうか、心配だというような声も出ております。

以上でございます。

○竹内教育長 それでは、お諮りいたします。

これまでにいただいた皆様のご意見を伺った結果、生活につきましては、光村図書出版を採択する教科書の候補としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定いたします。

以上で、生活に関わる協議を終了いたします。

次に、音楽について協議を行います。

説明をお願いします。指導課長。

○荒井指導課長 それでは、音楽についてご説明申し上げます。

音楽の教科書は2者です。

教科の目標については、資料2の3ページに記載のとおりでございます。

次に、採択協議会の協議では、教育出版は、風景や情景を感じる写真が多くある。また、児童が自分たちでどう感じて表現するかを行いやすいように感じる。

教育芸術社は、学習マップが良い。しかし、一部の写真が音楽・芸術的な視点から残念だと感じた。

教育芸術社は、イラストに華がない。人権的な配慮が欠けているのではないか。ほかにも心配な箇所があるのではないかと感じてしまうなどの意見が出され、教育出版が良いのではないか、次点で教育芸術社と協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書の良さや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、教育出版を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問がございましたらお願いいたします。

それでは、特に質問がございませんようでしたら、音楽についてご意見をお願いします。

井口委員、どうぞ。

○井口委員 私も教育出版が良いと思っております。1年生では、ハーモニカの紹介では、とても細かく分かりやすく書かれている。これが75ページ。その次の「ひらいたひらいた」という曲では、手を使った表現がとても丁寧で、子どもたちが実際に体験してみたいくなるような工夫も見られました。2年生では、「かくれんぼ」というところの呼びかけが紹介されているところが発展されるのではなかろうかと思ったところです。3年生の「茶摘み」という曲については、お茶の摘み方も紹介されていて、実際にその曲の背景や風景が想像をかき立てるいい取扱いだなと感じております。40ページの「富士山」、これは折り込みを使って富士山の雄大さを感じ取ることができました。4年生のこの「牧場の朝」では、この牧場の様子がありまして、これもとても分かりやすい、そして情景が描きやすい、想像しやすいのかなと感じております。5年生の「こいのぼり」では、折り込みで伝説についてまで触れられているところがいい。市民からも、このこいのぼりについてはダイナミックだなというような声も上がっております。6年生の4ページにあります学習マップ、これはすっきり整理されていて、とても見やすいと感じました。10ページの「おぼろ月夜」では、折り込みに写真がとても大きく描かれているなと感じております。

次に、教育芸術社については、1年生で、鍵盤ハーモニカについては、楽器をきれいに使うためにということで、洗い方について紹介されている点、これがとても丁寧だなと。また、「ひらいたひらいた」では、友達と輪になる様子が描かれているのがとてもいいなと感じたところです。2年生の「虫のこえ」、登場する虫がこの歌詞の場所にそるえて表記、説明されているところに丁寧さを感じております。3年生の「春の小川」では、登場する花であったり魚についても紹介がある。とてもいいのかなと。そして、リコーダーについては、低い音を出すときのイメージについて、水道のホースを浮かべようというこの例示もいい、分かりやすいと感じております。4年生の「さくらさくら」では、この見渡す限り、見渡す限りのこの桜、意味どおりの写真が使われていて、とてもいいなと感じております。5年生の「日本の民謡めぐり」では、各地の特色ある歌が紹介されていて、とてもいいなと思ったところです。6年生の学習マップ、ここでは情報量が盛りだくさんあるのかなと感じたところです。また、雅楽の写真も想像力を助けるのかなと思いました。

以上でございます。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

清水委員、どうぞ。

○清水教育長職務代理者 教育出版のイラストは、昔からある教科書のように優しい感じで好感が持てました。写真もダイナミックで美しいと思います。音楽の教科書に「君が代」が出てくるんですけれども、扱いが丁寧だなど。教科書の一番後ろではなくて、後ろよりちょっと手前に出てきています。オリンピックのエピソードとかが書かれていて、自国の国歌だけではなくて、ほかの国の国歌も大事にしていきたいと思いますという姿勢を感じていいなと思いました。

教育芸術社ですけれども、イラストが今風の漫画チックなものなので、これはちょっと私としては残念かなと思います。ただ、音楽の楽しさを大事にしているということにおいては、やっぱりさすがだなと思います。特に1年生については、音符よりも先にやっぱり楽しく歌を歌おうというような形で出てきているので、音符が早く出てくる教育出版よりも、教育芸術社のほうが私はいいなと思いました。

これはどちらの教科書も良さがあって、長所・短所がそれぞれ違って、比較してどちらが優れているかということについて非常に悩んだわけですが、教育芸術社を候補として選ぶというのも一つありだなと思いました。ただ、教科調査委員会の内容をその後見てみたところ、やはり補足説明であるとか曲のところではいろいろ出てくるこういう点に着目してとかということがちょっとうるさいなということと、それから、専科の先生が教えやすいだけでなく、担任も教えやすいというような視点で考えたときに、教育出版のほうが若干上なのかなということを感じております。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

高橋委員、どうぞ。

○高橋委員 私は教育出版が良いと思いました。1年生では、リズム学習において、分かりやすい表記で見やすい紙面になっている。また、3年生では、リコーダーの指の形が教科書の端を使って表記されている工夫もとても良いように感じました。6年生の教科書の裏表紙にあるピアニストの辻井伸行さんについて、1人のアーティストとして書かれているところも、私はとても良かった点です。QRコードの動画も分かりやすい内容であったと感じました。

教育芸術社は、QRコードもたくさんあって、積極的に取り入れようというところは見受けられたんですけれども、教員の手本と変わらないような内容であったりということが見受けられ、内容についてはまだまだ改善の余地があると思いました。ただ、6

年生の教科書では、著作権について触れているという箇所があり、とても良く感じました。また、書き込む箇所があったんですけども、音楽という教科において書き込むという必要性があるのかどうかというところは、疑問点として私の中では残りました。

以上です。

○竹内教育長 ほか。

岩崎委員、どうぞ。

○岩崎委員 私は芸術に関しては、家庭の文化資本や教育力というものの影響が大きくなる教科であるため、格差を是正するために公教育の役割は非常に重要であると考えています。その意味では、児童が自然と音楽に触れられる内容であり、相対的に子どもの成熟が高い武蔵野市には教育芸術社が合っていると考えました。歌いたくなる曲もたくさん入っており、何よりも教科として音楽を考えるとすれば、歌のポイント、メッセージなどその教育的内容が充実しているのは教育芸術社であり、鑑賞でもミュージカルなどのジャンルが広くあって良いと思いました。

ただし、音楽専科ではない先生が教えるという点や指導内容に連続性があるかどうか、いわゆるこれまでの指導内容に連続性があるかという点では、教育出版という選択も望ましいということを理解したところです。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。

各委員のお話を伺っていると、ここもそれぞれの教科について良いところがそれぞれにありまして、なかなか1者に決めるのは難しい要素もある、という教科ではないかなと思いました。ただ、皆様の意見を伺った結果、学校で使う、武蔵野市の学校で使うという観点からも踏まえまして、お諮りしたいと思います。

その観点から、音楽につきましては、教育出版を採択する教科書の候補としたいと思います。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定いたします。

以上で、音楽に関わる協議を終了いたします。

次に、図画工作について協議を行います。

説明をお願いします。統括指導主事。

○高丸統括指導主事 それでは、図画工作についてご説明申し上げます。

図画工作の教科書は2者でございます。

教科の目標につきましては、資料2の3ページに記載のとおりでございます。

次に、採択協議会の協議では、開隆堂出版は、教員が研究で取り組んでいる新しい題材や内容が入っている。

開隆堂出版の表紙はワクワク感があり、児童が苦手意識を感じにくそうな印象を受ける。

日本文教出版は、6年生に焼き物の題材がある。しかし、窯がない学校では自校で製作することができないため、主体的に取り組むことができないなどの意見が出され、開隆堂出版が良いのではないかと、次点で日本文教出版と協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書の良さや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、日本文教出版を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問がございましたらお願いいたします。

特に質問がございませんようでしたら、図画工作についてご意見をお願いいたします。
井口委員、どうぞ。

○井口委員 私は日本文教出版がいいと考えております。1・2年生のこの上巻は、曲線の切り方にとっても特色を当てております。そして3・4年生の下巻では、安全についての取組が書かれているところ、そして3・4年生の上巻には、三鷹にある天命反転住宅の記載があって、とても子どもたちにもなじみがあるなど感じております。また、「アートカード」というものがあることで、作品に触れることができ、いいなと感じているところです。「図工体操」というものもいいのかな、とても面白い触れ方だなと思いました。また、危険につながる部分がない、そういう工夫が見られているところがいいと思っております。また、市民からは、目次が見やすい、あとはマスクがとても目立つなどが入ってございました。

次に、開隆堂出版ですけれども、まず開隆堂出版は、3・4年生の上巻の17ページには、「かげのへんしん」というテーマがあります。ここの写真に、雲梯にひもを巻いたりフラフープを引っかけたりしている絵があるんですけども、これ万が一、ひもやフラフープをかけた状態で子どもがジャンプなどしてしまうと、首に絞まってしまって、窒息事故につながらないといいな、そういうようなちょっとやきもき、ひやひやするこ

とにつながるような写真がある、これがとても気になったところであります。また、ほかのところだと、1・2年生の上巻では、この粘土を使った後への配慮であったり、1・2年生下巻だとカッターナイフ、刃を折るときに使う場所の紹介であったり、横や斜めに切らないというとても丁寧な記述、そして3・4年上巻には、釘の抜き方ということで、釘先をたたいて頭を出す、そんなところから記述が始まっているというのはいいところだなと感じました。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

清水委員、どうぞ。

○清水教育長職務代理者 日本文教出版です。児童例がダイナミックな作品例が多くて、遊ぶことを大事にしているということがいいなと思いました。子どもならではの発想で、斬新な作品を期待できると。表紙もいいなと思います。作品例がこんなことも許される内容というようなことで出ているのがいいなと。教科書を見て児童がわくわくする内容になっている、感性を育てるのに必要な自由に自分の思いを作品に込めることができるということでは、いいなと思います。

開隆堂出版ですけれども、児童の作品例がたくさん出ています。作品一つ一つ見ると、割合小ぢんまりとまとまった作品が多かったですけれども、前回の教科書採択に比べると、ダイナミックな作品が増えてきたなと思いました。ただ、5・6年生の上巻の32ページなどの写真ですけれども、これちょっと大人の手が入っているのかなというような作品にも見られかねないなという気がします。

どちらのが明らかに優れているというような差はないんですけれども、窯がないという消極的な理由だけで日本文教出版を落とすというのはないのかなと。やはりその子どもの感性を伸ばすということを大事にしている日本文教出版を武蔵野市の教科書として採択するほうがいいのではないかと思います。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

高橋委員、どうぞ。

○高橋委員 私はこの2者を比較するのに3つの観点から比較をしてみました。レイアウトの良さ、あとは美しさ、デザイン、そして様々な例の提示例、この3つを比較して考えて、日本文教出版がいいというふうに思いました。

例えば、1年生の上巻にある粘土のいろいろな作り方などの例というのも良いと思い

ました。また、美しさという点では、5・6年生の下巻で美しさを表現するのに和菓子が入っているというのがとても良かったと思います。全体を見渡したときの教科書の構成のレイアウトというのも非常に見やすく、説明も良かったと思いました。

開隆堂出版は、レイアウトがちょっとごちゃごちゃして、私は見にくかったかなと感じました。例えば1・2年の下では、新聞紙を使ったものを30ページやっているんですけども、私は全体を見開いてみたときに、全部新聞紙にしか見えなかったというところ、このあたりはデザイン、レイアウトの構成のところでもうちょっと工夫があってもいいのかなと思ったところです。3・4年生の下巻には、児童の作品があるのはとても良かったんですけども、その児童の作品のほかにもやはり美しい芸術的な作品をもう少し載せても良かったのかなと感じたところです。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

岩崎委員、どうぞ。

○岩崎委員 開隆堂出版は、武蔵野市の教員が使用するのに非常に適していることは理解したつもりです。一方で、日本文教出版に関しては、見出しの言葉遣いやタイトル等など全体的にセンスが良く、かつ学習活動の狙いが分かりやすい。いわゆる教科として図画工作を扱っているという点を評価しました。特に武蔵野市のまちづくりにおいては、市民の総体としてのデザイン力やセンスが問われ、期待されることを考えますと、そのようなデザインのセンスや思考への素養を武蔵野市の子どもたちの中で育てるという意味では、日本文教出版のほうがより優れていると思いました。

○竹内教育長 各委員からご意見をいただいた結果、日本文教出版が良いのではないかとことです。採択協議会からは次点という形で出てきましたが、私も図画工作の目標の中の鑑賞という要素から含めて拝見して、日本文教出版が良いのではないかと感じております。

そこで、お諮りをしたいと思います。

これまでにいただいた皆様のご意見を伺った結果、図画工作につきましては、日本文教出版を採択する教科書の候補としたいと思います。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定いたします。

以上で、図画工作に関わる協議を終了いたします。

次に、家庭について協議を行います。

説明をお願いします。指導課長。

○荒井指導課長 それでは、家庭についてご説明申し上げます。

家庭の教科書は2者です。

家庭の目標は、資料2の3ページに記載のとおりです。

次に、採択協議会の協議では、東京書籍は、A4サイズとなり、現行の教科書より見やすくなった。開隆堂出版も分かりやすい。また、開隆堂出版は、裏表紙にも内容を掲載されている。場所を取らずに実習中に使える。

ジャガイモの食中毒に関して、東京書籍は言葉のみだが、開隆堂出版は写真つきで説明していて分かりやすい。また、アレルギーへの言及も開隆堂出版が多い。

開隆堂出版は、表紙のイメージが家庭科と感じる。文字の大きさも見やすい。食文化について大きく取り上げており、日本文化の奥深さの理解につながるなどの意見が出され、開隆堂出版が良いのではないかと、次点で東京書籍と協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書の良さや気になる点などを細かくご意見をいただいた上で、開隆堂出版を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問がございましたらお願いいたします。

それでは、特に質問がございませんようでしたら、家庭についてご意見をお願いします。

高橋委員、どうぞ。

○高橋委員 私は開隆堂出版が良いと思いました。調理の手順などが丁寧であるということ、また家庭の時間を大切にしている单元ということで、家庭科の学びを生かせるようになっていると思いました。また、地域や世界のティータイムにつなげているということも良かったと思った点です。

東京書籍も家族の時間を大切にするという学習がございましたけれども、その中に63ページの「団らんの手順」というところで、「楽しく会話する」という一文がありました。これは楽しくしなければいけないという、子どもに強制になってしまうのではないかと私はちょっと感じたものですから、ここの記述がどうなのかなと思いました。団らんが、この文字によって楽しくしなければならないとなってしまうのは、ちょっと疑問

点が残るかなと思いました。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

清水委員、どうぞ。

○清水教育長職務代理者 まず、東京書籍ですけれども、導入の部分で、「いつも確かよう」、「気をつけること」、「やっちはいけないこと」というのがあります。この指導はとても大切なんですけれども、これから新しい家庭科という学習を始めようというときに、しては駄目がいっぱい続くというのは、これは良いと思いません。全体としては分かりやすく見やすい紙面構成で、余白もあって字体や字の大きさも見やすいなと思っています。

それに対して開隆堂出版は、家庭科を学ぶことの大切さから入っている。これはとてもいいなと思いました。内容的にも詳しく、そして分かりやすくということで、とてもいいなと思いますが、1点、包丁の扱い方の指導というのは、どちらもきちんとされています。ただ、開隆堂出版の19ページのキャベツの芯を切り落とす写真、これはアングルが悪いので、親指の位置がまるで包丁の下にあるように映っているんですね。もしこのとおりにやって親指を切り落とす児童が出たら大変だなと思いました。この写真を差し替えはできないのかなと思うんですけれども、全体を通して開隆堂出版は、私はいい教科書だなと思っているので、ここの点だけちょっと残念だなと思いました。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

井口委員、どうぞ。

○井口委員 私もこの開隆堂出版が良いと考えております。例えば、裁縫という分野では、玉止め前に糸こきをするというような記述があるのがとても丁寧で良くて見やすいなと思いました。そして、市民からも見やすさ、分かりやすさ、読みやすさが重視されているという意見もあります。

東京書籍は、ニンジンの切り方が幾つか紹介されていて、丁寧でした。糸の玉止めでは、残りの糸の長さが足りないときということも書いてあっていいなと思ったところです。また、市民からもみそ汁に煮干しのだしをとるところでは、日本の食文化に触れているという声も届いております。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

岩崎委員、どうぞ。

○岩崎委員 東京書籍は、振り返りの活動などが示されていて良いと思いました。

家庭科は生活に根差した教科書ですので、紙面構成や色遣いが見やすいことも大きなポイントかと思っています。また、家庭科の一部はスキルの側面もあるため、チェック項目が多くあるということ、豆知識といった内容が書かれており、児童の関心を喚起するという点も含めて開隆堂出版が良いと思いました。

○竹内教育長 それでは、お諮りいたします。

これまでにいただいた皆様のご意見を伺った結果、家庭につきましては、開隆堂出版を採択する教科書の候補としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定いたします。

以上で、家庭に関わる協議を終了いたします。

次に、保健について協議を行います。

説明をお願いします。統括指導主事。

○高丸統括指導主事 それでは、保健についてご説明申し上げます。

保健の教科書は6者でございます。

教科の目標や内容等については、資料2の4、5ページに記載のとおりでございます。

次に、採択協議会の協議では、東京書籍は見やすく感じるが、G a k k e n と比べるとイラストが多過ぎる。

G a k k e n は、情報が簡潔にまとまっている中で、自分の考えを書き込めるようになっていて使いやすいように感じる。

G a k k e n や光文書院が性の多様性について、相談窓口の記載もあり、工夫されていると感じた。

コンピュータなどと表現をばかさずに、児童に直接関わる「スマートフォン」という具体的な表現で示すことが大切だと考える。その点、大修館書店には好感を持った。

スマートフォン、スクリーンタイムと具体的に示しているのは、大修館書店、東京書籍などであるなどの意見が出され、G a k k e n が良いのではないかと、次点で大修館書店と東京書籍と協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書の良さや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、G a k k e n を候補の案とすることで、一旦、協議がま

とまったところでございます。

以上で説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問がございましたらお願いいたします。

それでは、特に質問がございませんようでしたら、保健についてご意見をお願いいたします。

高橋委員、どうぞ。

○高橋委員 6者ともにとても良いなというふうに思いました。

G a k k e nは、不安への対処法や飲酒等の記述がとても整理されていて、また見やすさ、不安への対処法の記載という点が良かったように感じました。

また、東京書籍は、男女で分ける性と自分らしさで分ける性という表現のところがとても良く感じました。ただ1点、イラストの統一性というところは、私はあまり感じなかったところです。

大日本図書ですけれども、図解がとても分かりやすかった。そして、相談先の電話番号が書いてあるという点がとても良かったと思います。

また、文教社は、悩みを誰かに相談しようという3ページにわたって説いている。また、薬物などに関してもかなりのページで解説しているというところが良かった点です。

大修館書店は、ページがよくまとまっていて、また不安や依存症についての対処法がきちんと書かれていてとても良いと思いました。

あとは光文書院ですね。5年生、6年生の作りが非常に丁寧だなと感じました。一方で、ちょっと内容的に児童が本当にここまで読むかというところに私は疑問を感じました。

6者ともにそれぞれの良い点というのが本当にあったんですけれども、その中で見やすさ、分かりやすさという点で、私はG a k k e nが良いと感じました。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

井口委員、どうぞ。

○井口委員 私もこのG a k k e nがいいと思っております。まず、多摩六都科学館について紹介があり、写真があるというところで、とても身近に感じるのかなというところから入っていったところです。

そのほか、このそれぞれの出版社に対して、私はこのA S U K Aモデル、救命という

ところを大切に書いていったところでは、

例えば、このG a k k e nは5・6年生のところでは、A E Dについては、電源を切らない、そしてパットも剥がさないで、そのまま救急隊に引渡しをするというところが書いてある。これは訓練等で受けますと、次の方にA E Dを回すために、電源を切ってパットも自分たちで片づけをしてしまうんですね。ところが、実際本物では当然電源を切ってしまっただけで、パットも救急隊員から剥がしてくださいと言われるまではそのままつけておいてくださいということを書かれているところから、この表記とてもいいなと思ったところでは、

東京書籍は、このA S U K Aモデルというところについて触れられているんですけども、他にもこのA S U K Aモデルについて触れているところではありますけれども、とても意識してA S U K Aモデルの本来の書き方がされているなど。A S U K Aモデルの大切なところというのは、学校の先生がふだんどおりの呼吸をしているかどうかというところを見誤ってしまって、この明日香ちゃんという少女がお亡くなりになってしまったことから、このA S U K Aモデルとして今動きが出ているところでは、東京書籍は、このA S U K Aモデルについて、ふだんどおりの呼吸をしているかどうかというところが触れているので、正しい書き方ではあったんですけども、例えば大日本図書ですと、それらについては弱い、記述がない。A E Dについては、救急車が来るまで続けますよというふうに書いてありました。

大修館書店では、救命が41ページありますけれども、このチャート図がイエス、ノーというところがとても分かりやすいのかなと思いました。

文教社は、これはほかの出版社と比べますと、何かかけ離れた違いを私は感じました。特にこの西日本を中心とした書き方に偏りを感じたところ、また、A E Dについてのイラストも分かりにくく、もしかしたら書かれていないのかなとも感じたところでもあります。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

清水委員、どうぞ。

○清水教育長職務代理者 3・4年の初めのところで、保健を学ぶ目的が明確に分かりやすく出ているのは、東京書籍と大修館書店だと思います。他者は目的のようなものは書かれているものもありますけれども、ちょっと伝わりにくいかなと思いました。

内容の良さでいうと、東京書籍とG a k k e n。色合いが良くて、大きな写真から課題を見つけたりイラストから課題を発見したりと考えを深め、話合いにつながるような内容になっているのは、G a k k e nのほうかなと思います。東京書籍もいいんですけども、こういった話合い活動が充実していくような構成になっているG a k k e nを採択したらどうかなと思いました。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

岩崎委員、どうぞ。

○岩崎委員 私もG a k k e nが良いと思いました。今まで他の委員がお話しになられたことと違う観点としては、G a k k e nの教科書は紙の質が良くて、児童が書き込みしやすいという点を感じました。教科書の中で学んだことと生活を結びつけて振り返るという構成も良いと思います。先ほど申し上げました書き込みやすい紙の質であることと同時に、色合いもとても優しくて良いと思いました。

○竹内教育長 それでは、お諮りいたします。

これまでにいただいた委員の皆様のご意見を伺った結果、保健につきましては、G a k k e nを採択する教科書の候補としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定いたします。

以上で、保健に関わる協議を終了いたします。

それでは、次に、外国語について協議を行います。

説明をお願いします。指導課長。

○荒井指導課長 それでは、外国語についてご説明申し上げます。

外国語の教科書は6者です。

教科の目標につきましては、資料2、5、6ページに記載のとおりです。

採択協議会の協議では、光村図書出版は、「聞くこと」のコンテンツが充実している。一方、書くことの箇所が少ないように感じる。その点、東京書籍は充実しているように感じる。

小学校はコミュニケーションの素地を養うことが重要。書くことをそこまで重要視する必要はないと考える。光村図書出版の分量で十分ではないか。

三省堂は、振り返りの場面で人のいいところを見つけるという視点があるのが、学級

の関係づくりとしても良い。

東京書籍は、ワークが多くていいと思ったが、小学校の頃は、会話を重視してコミュニケーションの楽しさを味わってほしいなどの意見が出され、光村図書出版が良いのではないかと、次点で東京書籍、三省堂と協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書の良さや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、光村図書出版を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問がございましたらお願いいたします。

それでは、特に質問がございませんようでしたら、外国語についてのご意見をお願いいたします。は

岩崎委員、どうぞ。

○岩崎委員 初めの段階では、新興出版社啓林館、開隆堂出版は課題等が多くあって、外国語の習熟には良いと思いましたが、小学校ではできるだけ楽しく英語に触れることが大事、大切だと改めて考え直しました。新興出版社啓林館はイラストの品がいいと感じました。東京書籍、三省堂は一定の水準を満遍なくクリアしていると思ったところです。

結果、結論として光村図書出版が良いと思いました。理由は、会話に重点を置いて、始め、展開、まとめの構成になっていること、小学生では体を動かしたりしゃべったりするという身体性を重視するということ、できるだけ楽しく自然な形で英語に触れられるようにするということ、これらの点を重視すると、光村図書出版が適切だと考えた次第です。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

清水委員、どうぞ。

○清水教育長職務代理者 5年の初めに教科書の構成と使い方が出てくるんですけども、その中で分かりやすくまとまっているのは、開隆堂出版と教育出版と光村図書出版だと思います。6年では、5年からさらに進化させて、パターン化した例文を繰り返したり、より深く広がりのある話題、場面での会話練習を目指したりと、会話練習を積み重ねるうちに自信を高め、会話力を高めていく、そういう構成になっているのが東京書籍、開隆堂出版、教育出版、光村図書出版だと思います。その中でも、内容が良くて、伝える、

表現する活動を大事にしているという観点で一歩リードしているのは、光村図書出版かなと思いました。

また、光村図書出版は、会話で大切なこととして、スマイル、アイコンタクト、クリアボイス、レスポンスが繰り返し出てくるんですね。これは外国語を学ぶということではとても大切なことで、素晴らしいと思いました。

以上より、光村図書出版を採択するのがいいかなと思います。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

井口委員、どうぞ。

○井口委員 私もこの光村図書出版が良いと考えております。聞くことから始める学習を始めるといふそういう構成になっているところがいいなと感じています。また、別冊がなくて1冊にまとまっていることによって、子どもたちの忘れ物の心配がなくなる、減るといふところも一つ大きな点としても感じたところです。この外国語は初めて学ぶジャンルのもので、楽しく親しみながら取り組める工夫がされているところがいいなと感じたところです。また、市民からもイラストの雰囲気もいいというような書き込みもありました。

東京書籍は、ワークが多いというところがありますが、会話への役立ち、そして国際理解につながったりするのかなというふうにも感じたところです。

教育出版は、この絵やイラストに何か違和感というか、何かすっきりしないなと感じたところです。

私からは以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

高橋委員、どうぞ。

○高橋委員 全教科において、動画というものが一番重要視されるのはこの教科ではないかなと私は感じております。なので、ネイティブの発音であったりとか、あとはその新しい教科への親しみ、子どもたちの興味というもので、このQRコードでの動画ということを私は重点的に拝見いたしました。

光村図書出版は、動画が非常にきめ細やかに作り込まれていて、発音などもとても良いと思いました。PとBの違いを音で分かりやすく作られていたりというのもとても良かったと思った点です。

東京書籍は、動画が日本人英語になっていたのがとても残念に感じました。せっかく

ですので、これはやはり正しい発音というのを聞いたほうがいいのかと思います。

三省堂は、難易度は易しいなと感じました。動画のQRコードを見てみたんですけども、これが令和5年のものをご覧くださいとなってしまっていたんですね。採択の時期にこれが見られないというのは、私は非常に残念に思いました。ここは改善をぜひしていただきたいなと思った点です。

開隆堂出版は、QRコードがページをまたいでおり、どこを確認していいのか分かりづらいというのが私は気になったところです。全体的に文字が多くて見づらいと感じました。

教育出版は、全体的に易しいと。QRコードでは、発音はいいんですけども、場面設定に物足りなさを感じました。

新興出版社啓林館は、全体的に単語を詰め込み過ぎていると私には感じました。動画の内容も悪くないんですけども、逆に難し過ぎると感じました。やはり英語は慣れ親しむというところが小学生の段階ではとても大切であると思っていたので、ちょっと詰め込み過ぎも逆にもったいないかなと思ったところです。

以上です。

○竹内教育長 それでは、お諮りいたします。

これまでにいただいた皆様のご意見を伺った結果、外国語につきましては、光村図書出版を採択する教科書の候補としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定いたします。

以上で、外国語に関わる協議を終了いたします。

最後に、特別の教科 道徳について協議を行います。

説明をお願いします。統括指導主事。

○高丸統括指導主事 それでは、特別の教科 道徳についてご説明申し上げます。

特別な教科 道徳の教科書は6者でございます。

教科の目標や内容項目につきましては、資料2の6ページに記載のとおりでございます。

次に、採択協議会の協議では、光文書院は、各教材に「かんがえよう・まとめよう・ひろげよう」の4つの問いがあって、多い気がする。

武蔵野市は4月から子どもの権利条例を施行している。関連して、子どもの権利条約

を光村図書出版や東京書籍、光文書院は目次にはっきりと書いてある。

ネットリテラシーについて、教育出版と光村図書出版は具体的な事例が出ていた。中でも光村図書出版は、文字だけでなく図でイメージが付きやすい。

教育出版の5年生の「SNSいじめ」がストレートな内容だった。親も先生も知らないところでいじめが起きているということもあるなどの意見が出され、光村図書出版、東京書籍が良いのではないかと、もう1冊選ぶとすれば、教育出版と協議をまとめました。

そして、先日の臨時会では、委員の皆様から各者の教科書の良さや気になる点など細かくご意見をいただいた上で、光村図書出版を候補の案とすることで、一旦、協議がまとまったところでございます。

以上で説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問がございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

それでは、特に質問がございませんようでしたら、特別の教科 道徳についてご意見をお願いいたします。

高橋委員、どうぞ。

○高橋委員 私は光村図書出版がとても良いと思いました。教科書を読んでいて、これほど本当に心の底からいいなと思ったものはありません。何かというと、道徳という授業は、答えがどれが正しいということではないと思うんですね。その中で、どうしても教科書というものはできるとかやれるというものを示したくなる一方で、光村図書出版の本は、できないということもあるという人間らしさというものを肯定しているというのがとても斬新に映りました。また、多様性ということでもいろいろな考えであったりとか、できないことというのもあるよねというそこを認めるということがすばらしい内容だと感じております。

教育出版は、ちょっと文字が読みにくいなという私は印象がありました。藤井聡太さんの内容というのも非常に良かったと私は思います。

東京書籍です。全体的にまとまってとても良かったんですけども、先ほど音楽のところではピアニストの辻井伸行さんの紹介がありましたけれども、東京書籍のほうでは目が見えなくても活躍しているという紹介の仕方が私にはちょっと残念に感じました。

日本文教出版は、目次がとても良かったと思います。ただ、分量としてはちょっと多過ぎるかなというところ。また、礼儀のところでは他者のことを考えるというところが良

かったと思います。

光文書院は、全体的に詰め込み過ぎているかなという印象がありました。

G a k k e n ですけども、私は棋士なのでどうしてもそこに目が行ってしまうのですが、藤井聡太さんのところの文で「名人をこす」という趣旨についてなんですが、ちょっと本人の意図、つまり将棋界での意味合いとこの書いた著者のところに相違があるなど感じたところが気になった点です。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

岩崎委員、どうぞ。

○岩崎委員 光村図書出版が良いと思いました。それぞれの項目に対し、どういう意味だと思うかという問いかけがあること、あるいは「演じて考えよう」、「絵を使って考えよう」といったような考えることへのスキルを明示していることを評価しました。

東京書籍などでも資料的に掲載している内容ではありましたが、光村図書出版は6年生の教科書にこの教科書が目指した6年生の姿として、先生方、保護者の方々に向けたメッセージがあって使いやすいと感じました。

日本文教出版は、唯一ノートがついていました。ノートの必要性をどのように考えたらいかががよく分かりませんでした。現場でノートがあるということが難しい場面もあるということを知りました。教材が他社と比較して、以前道德の教材として例示されたと思われる共通の読み物が多く、もう少し教材研究があってもいいのかなと感じたところです。

武蔵野市が注目している子どもの権利条約とデジタル・シティズンシップというものに関しましては、入っている出版社と入っていない出版社がありました。

それと、全社に関わることですが、小学生の身近な例ということで、副読本であればまだ良いと思いますけれども、現在生きている人を道德という教科の題材として教科書に入れることに関し、そのタイミング、あるいはリスク、是非を私個人は感じました。

以上です。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

清水委員、どうぞ。

○清水教育長職務代理者 道德は、資料のよしあしが全てと言っていいかなと思います。

良い資料から良い学びが生まれていく。その点でいくと、どの教科書も工夫が見られて、

児童が互いの考えに耳を傾け、対話的な学びを促すような資料が多いなと思いました。

また、低学年では学級内で身近に起こりそうなことを多く取り上げているのが、東京書籍とGakkenです。

光村図書出版の2年生の118ページに「きらきら」というのがあって、美しい雪の結晶の写真が全面にありました。とてもダイナミックな写真で、この写真から児童がどんなことを発言するのかというのはもう本当に考えただけでわくわくするなと思います。そして光村図書出版ですけれども、5・6年でよく考え話し合い活動が深まりそうな資料、これがとても多いなと思います。また、感動する話も多く入っていて、児童の目が世界へ向くきっかけとなるような資料のある光村図書出版が採択に適しているのかなと思いました。

○竹内教育長 ほかいかがでしょうか。

井口委員、どうぞ。

○井口委員 私はこの東京書籍が最もいいと思っていたんですが、皆様の意見であったり、総合的な中からこの光村図書出版がいいと感じているところです。

まず東京書籍が、まず題材として、6年生では多摩川をテーマとした「タマゾン川」という作品が紹介されていて、また、この東京大空襲という切り口からの学びにつながって、武蔵野市に住んでいる子どもたちにとってはとてもなじみがある題材でいいなと思っていたところです。

教育出版では、2年生で比べてみよう 日本と世界のじゃんけんの形というこれが違う国のじゃんけんの指の形を示しているんですが、ここでぜひ勝ち負けの部分、グーとチョキはグーが勝つというような形を世界のじゃんけんの形でも表記されているとさらに発展するのではなかろうかと。また、5年生では「新幹線開発物語」ということで、国分寺にもありますけれども、とても身近に感じるテーマかなと思ったところです。

次に、日本文教出版の3年生には、「これ、全部東京産」ということで、この小松菜について触れられているんですけども、私自身が小松菜が東京から出てきたということは自分自身も学びになって、とても興味がありました。一方で、ノートが別冊でついているんですけども、道徳という授業の中において、先生の指導で必ずこのノートは使うとは限らないのかなという中で、子どもが持ち帰った道徳のノートが、何も書かれていないページが多くあると、保護者としては何かうちの子どもはちゃんと授業を受けているんだろうかとちょっと不安になるのかなと感じたところがありました。

G a k k e nでは、「谷川岳に生きたドクター」というところで、この谷川岳はセカンドスクールの地域にとっても近いというところで愛着を感じやすいのかな。また、5年生では、「すごい！江戸の社会 リサイクル」というところでは、SDG s への取組にもつながるところがあつていいなと思ったところです。

以上です。

○竹内教育長 それでは、お諮りいたします。

これまでにいただいた皆様のご意見を踏まえて、特別の教科 道徳につきましては、光村図書出版を武蔵野市の小学校の教科書として採択する候補としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、このように決定いたします。

以上で、特別の教科 道徳に関わる協議を終了いたします。

それでは、方向性の確認ができました。

以上で、協議事項1、令和6年度使用小学校教科用図書採択についてに関わる協議を終了いたします。

ここで5分間休憩とします。

午前11時39分休憩

午前11時43分再開

○竹内教育長 休憩前に引き続き、会議を再開します。

◎議案第24号 令和6年度使用小学校教科用図書採択について

○竹内教育長 次に、議案に入りたいと思いますが、資料をお願いします。

それでは、議案第24号 令和6年度使用小学校教科用図書採択についてを議題といたします。

説明をお願いします。指導課長。

○荒井指導課長 それでは、議案第24号 令和6年度使用小学校教科用図書採択についてご説明いたします。

この議案は、令和6年度から令和9年度に使用する小学校教科書について採択をお願いするものでございます。

議案書をご覧ください。

先ほどの協議の結果、決定いたしました種目ごとの教科書の候補につきまして確認し、説明に代えさせていただきます。

種目、発行者の順に読み上げてまいります。

国語、光村図書出版株式会社。

書写、光村図書出版株式会社。

社会、東京書籍株式会社。

地図、株式会社帝国書院。

算数、東京書籍株式会社。

理科、大日本図書株式会社。

生活、光村図書出版株式会社。

音楽、教育出版株式会社。

図画工作、日本文教出版株式会社。

家庭、開隆堂出版株式会社。

保健、株式会社G a k k e n。

外国語、光村図書出版株式会社。

特別の教科 道徳、光村図書出版株式会社。

なお、採択いただきました場合、この結果につきましては、8月31日までに東京都教育委員会に報告いたします。

説明は以上でございます。

ご審議のほどよろしく願います。

○竹内教育長 ただいまの事務局の説明について、ご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。

よろしいですか。

それでは、ご意見、ご質問がございませんようでしたら、皆様にお諮りいたします。

議案第24号 令和6年度使用小学校教科用図書採択についてを議案のとおり決定したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、そのように決定いたします。

◎閉会の辞

○竹内教育長 これをもちまして本日の日程は全て終了いたしました。

令和5年第2回教育委員会臨時会を閉会いたします。

本日はお疲れさまでした。

午前11時46分閉会